



# 専門分野

基礎看護学

## シラバス

科目名	基礎看護学総論	単位	1	時間数	30	開講時期	1年次 前期	担当者	副校長
学習のねらい	看護をするうえで、自分が看護をどのようにとらえているのか（＝看護観）を持つことはとても重要です。本科目では、先人の看護観や対象のとらえ方などから自身の看護観を形成し、今後、どのように本校で看護を学習していく姿勢や態度を整えたらよいのかを考え、実践できる力を養います。								
目的・目標	<p>目的；自己の現在の看護観を明らかにし、今後の学習に対する姿勢や態度を身につける。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先人の看護のとらえ方（看護観）に対する理解を深めることができる。</li> <li>2. 専門職としての看護職の役割と機能および看護の対象を理解することができる。</li> <li>3. 看護において倫理的判断ができる素地を作ることができる。</li> <li>4. 看護や看護技術を学習するために必要な姿勢を整えることができる。</li> <li>5. 自己の看護に対する価値観（看護観）を大まかに形成することができる。</li> </ol>								
授業計画	<p>1回（45分×2） 看護の定義 専門職としての看護師 看護の歴史</p> <p>2回（45分×2） 看護の対象の理解</p> <p>3回（45分×2） 国民の健康と生活の全体像の把握</p> <p>4回（45分×2） 看護の役割と機能</p> <p>5回（45分×2） 看護の提供のしくみ</p> <p>6回（45分×2） 看護理論の理解① ナイチンゲール、ヘンダーソン、ペプロー、オム、ロイ等</p> <p>7回（45分×2） 看護理論の理解② グループワーク</p> <p>8回（45分×2） 看護理論の理解③ 発表会</p> <p>9回（45分×2） 看護における倫理① 看護者の倫理綱領</p> <p>10回（45分×2） 看護における倫理② グループワーク</p> <p>11回（45分×2） 看護ケア・看護技術とは何か</p> <p>12回（45分×2） 看護ケアにおける安全・安楽と自立の促進、個別性への配慮、効率の良さ</p> <p>13回（45分×2） 看護・看護技術を学ぶとはどういうことか</p> <p>14回（45分×2） 自らの目指す看護とは何か</p> <p>15回（45分×2） 試験</p>								
評価方法	課題レポート（30%）、筆記試験（70%）で評価する。								
教科書	<p>系統看護学講座 看護学概論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院</p>								
参考文献	<p>フロレンス・ナイチンゲール 看護覚え書 現代社</p> <p>ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの</p>								
履修要件									

## シラバス

科目名	基礎看護援助論 I (動作・環境調整技術)	単位	1	時間数	30	開講時期	1年次 前期	担当者	教員
学習のねらい	<p>人が「動く」とは日常における様々な目的を遂行するために行う身体運動であり、日常生活を営む上では欠かせないことである。対象の生活を整える看護にとって、対象の生活の場や看護援助の環境を整えることや対象の動きを整えることは非常に重要であり、すべての看護技術に共通する基礎となる部分である。対象と看護者の安全・安楽を考慮した調整の方法を習得してほしい。</p>								
目的・目標	<p>目的；対象と看護者の安全・安楽を考慮した方法で、対象の動作と環境を整える看護技術を学ぶ。          目標；1. 人間の活動と休息のバランスを整えることの重要性を理解することができる          2. ボディメカニクスの原理とその活用方法を理解することができる          3. ポジショニングや体位変換の技術を身につけることができる          4. 安全・安楽に対象を移送するために必要な技術を身につけることができる          5. 看護師が環境調整を行う意義と方法を理解することができる          6. ベッドメイキングの技術と臥床患者のリネン交換の技術を身につけることができる</p>								
授業計画	<p>1回 (45分×2) 活動と休息を整える意義          2回 (45分×2) 活動・休息に影響する要因とアセスメント          3回 (45分×2) ボディメカニクスの原理①          4回 (45分×2) ボディメカニクスの原理②          5回 (45分×2) 【校内実習】ポジショニング演習① 様々な体位          6回 (45分×2) 【校内実習】ポジショニング演習② 日常生活動作での体位          7回 (45分×2) 【校内実習】体位変換① 床上での体位変換 (上方移動、仰臥位⇔側臥位)          8回 (45分×2) 【校内実習】体位変換② 臥位⇔座位⇔立位の介助          9回 (45分×2) 【校内実習】移乗の技術 ベッド⇔車いす          10回 (45分×2) 【校内実習】移送の技術 車いす、ストレッチャーを使用した移送の介助 歩行介助          11回 (45分×2) 環境調整の意義と病床環境の調整方法          12回 (45分×2) 環境調整技術演習 (ベッドメイキング・リネン交換の学習ノート作り)          13回 (45分×2) 【校内実習】ベッドメイキング          14回 (45分×2) 【校内実習】臥床患者のリネン交換          15回 (45分×2) 筆記試験</p>								
評価	筆記試験 (100%) で評価する。								
教科書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院								
参考文献	<p>小川 浩一 看護動作のエビデンス 東京電機大学出版会 大河原千鶴子 看護の人間工学 医歯薬出版          坪井良子 考える基礎看護技術 ヌーベルヒロカワ 平田雅子 完全版ベッドサイドを科学する 学研</p>								
履修要件									

## シラバス

科目名	基礎看護援助論Ⅱ (生活援助技術)	単 位	1	時 間 数	30	時 期	2年次前期	担 当 者	教員 ※実務経験のある教員
学習のねらい	看護の対象が健康を踏まえたその人らしい日常生活を営めるようにするために必要な知識・技術・態度について学習する。日常生活を衣・食・住と考え、それらを満たすために必要な援助を「食事・排泄・清潔・環境調整の援助技術」として系統づけて学習することとする。看護技術を安全・安楽にかつ科学的根拠に基づいて提供し、対象を自立に向けられるようにするための基本援助技術を習得し、各看護学で応用できる能力を養うことをねらいとしている。								
目的・目標	目的；対象を自立に向けられるようにするための基本的知識、生活援助技術について理解することができる。 目標；1. 清潔・衣生活援助技術の種類、目的、方法について理解できる 2. 食事援助技術の種類、目的、方法について理解できる 3. 排泄援助技術の種類、目的、方法について理解できる								
授業計画	1. 清潔・衣生活援助技術 (8回；45分×16)		2. 食事援助技術 (5回；45分×10)			3. 排泄援助技術 (2回；45分×4)			
授 業 計 画	1) 清潔・衣生活の意義・目的、清潔・衣生活に関するアセスメント 2) 【校内実習】寝衣(浴衣)交換 清潔と不潔の区別、関節可動域を考えた着脱の仕方、エネルギー消費を最小限にする方法 3) 【校内実習】清潔ケアの種類と方法・生理作用・留意点(口腔ケア・整容) 4) 清潔ケアの種類と方法・生理作用・留意点(入浴・部分浴) 5)-6) 清潔ケアの種類と方法・生理作用・留意点 7)-8) 【校内実習】全身清拭・洗髪		1) 食事の意義、消化・吸収のメカニズム、食に関連する要因、食事に関するアセスメントの視点 2) 対象に適した食事援助 3) 非経口栄養(経管栄養法、中心静脈栄養法)について 4) 【校内実習】食事介助(全介助、一部介助) 5) 【校内実習】モデル人形を使った経鼻経管栄養チューブの挿入			1) 排泄の意義、メカニズム、排泄に関するアセスメントの視点 2) 【校内実習】尿器、便器の介助			
	筆記試験 (45分)								
方 法 評 価	筆記試験 (95%)、課題レポート (5%) で評価する。 清潔；55%、食事 30%、排泄 15%の配点とする。								
教 科 書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院								
文 献 参 考									
要 履 修 件									

## シラバス

科目名	基礎看護援助論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)	単位	1	時間数	30	開講時期	1年次 前期	担当者	教員 ※実務経験のある教員
学習のねらい	対象に関する情報を意図的に収集し、正確に査定・判断することは看護の方向性を決定する重要なポイントであり、看護過程の要となっている。身体面に関する情報収集には、問診・視診・触診・打診・聴診などの診断的手法が必要であり、それらの技術を使って正確な情報を収集し査定する力を養う。								
目的・目標	<p>目的；ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を学ぶ。</p> <p>目標；1. ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントを行う重要性を理解することができる。</p> <p>2. バイタルサインの変動因子を理解することができる。</p> <p>3. バイタルサインを正確に測定する方法を習得できる。</p> <p>4. 全身の器官・系統別の観察の方法を理解することができる。</p> <p>5. 観察結果を解剖生理の知識と結び付け、身体の状態をアセスメントすることができる。</p>								
授業計画	<p>1回 (45分×2) ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントとは何か、フィジカルアセスメントの基本手技 (問診・視診・触診・打診・聴診) 全身状態・全体印象の把握、全体の外観の観察</p> <p>2回 (45分×2) バイタルサインとは、意識が清明に保たれるメカニズム</p> <p>3回 (45分×2) 呼吸をするメカニズム</p> <p>4回 (45分×2) 恒温性を保つメカニズム 体温</p> <p>5回 (45分×2) 循環のメカニズム① 脈拍</p> <p>6回 (45分×2) 循環のメカニズム② 血圧</p> <p>7回 (45分×2) 【校内実習】バイタルサイン測定演習</p> <p>8回 (45分×2) 系統別のフィジカルアセスメント① 呼吸器系のフィジカルアセスメント</p> <p>9回 (45分×2) 系統別のフィジカルアセスメント② 心臓・血管系のフィジカルアセスメント</p> <p>10回 (45分×2) 【校内実習】呼吸器・心臓・血管系のフィジカルアセスメント演習</p> <p>11回 (45分×2) 系統別のフィジカルアセスメント③ 臓器のフィジカルアセスメント</p> <p>12回 (45分×2) 系統別のフィジカルアセスメント④ 神経・感覚器系のフィジカルアセスメント</p> <p>13回 (45分×2) 系統別のフィジカルアセスメント⑤ 骨・筋系のフィジカルアセスメント</p> <p>14回 (45分×2) 【校内実習】腹部、神経・感覚器系、骨・筋系のフィジカルアセスメント演習</p> <p>15回 (45分×2) 筆記試験</p>								
評価方法	課題の提出状況 (10%)、小テスト (10%)、筆記試験 (80%) で評価する。								
教科書	<p>系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p> <p>看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディック・メディア</p>								
参考文献	<p>横山美樹 はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド社</p> <p>角濱晴美 基礎看護技術 メヂカルフレンド社</p>								
履修要件									

## シラバス

科目名	基礎看護援助論Ⅳ (診療の補助技術Ⅰ)	単 位	1	時 間 数	30	開 講 時 期	2年次前期	担 当 者	教員 ※実務経験のある教員
学習のねらい	健康障害のある対象が安心して安全・安楽に診療が受けられるように、また、治療効果が上がるように援助することは看護師の大切な役割である。したがって、診療と検査治療の目的を理解し、援助するための技術について学習することが本科目における大きな目的であり、具体的には包帯法、与薬技術、採血や導尿といった検体採取の技術における基礎的な知識、技術を習得し、診療の補助技術についての理解を深めることをねらいとする。								
目的・目標	目的；診療と検査治療の目的を理解し、援助するための技術について理解することができる。 目標；1. 与薬の種類、目的と方法について理解することができる。 2. 包帯法の種類、目的と方法について理解することができる。 3. 検体採取(静脈採血)の目的と方法について理解することができる。								
授業計画	1. 与薬技術 (7回；45分×14)			2. 包帯法技術 (3回；45分×6)			3. 検体採取技術 (5回；45分×10)		
	1)-2) 与薬の種類と目的・適応、注射以外の与薬方法の実際 3) 輸血の目的と種類、輸血時の看護 4)-5) 注射(皮内注射・筋肉注射・点滴静脈内注射)による与薬時の看護 6)-7) 【校内実習】モデル人形を用いた注射(筋肉注射・皮下注射・点滴静脈内注射)など 与薬の実際			1) 創傷治癒過程と回復の促進、包帯法の種類と適応 2) 褥瘡予防(褥瘡発生のメカニズム、好発部位、リスクアセスメント、予防の実際) 3) 【校内実習】包帯法の種類と実際			1) 検査時の看護 2) 静脈血採血の目的と方法、技術 3) 【校内実習】モデル人形を用いた静脈血採血の実際 4) 導尿の種類、目的と方法、技術 5) 【校内実習】モデル人形を用いた導尿の実際		
	筆記試験 (45分)								
評価方法	筆記試験 (100%) で評価する。 与薬；50%、包帯法；20%、検体採取 30%の配点とする。								
教科書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院								
参考文献	写真でわかる基礎看護技術 ① ② インターメディカ 基礎看護学 ナーシンググラフィカ® 基礎看護技術 メディカ出版								
履修要件									

## シラバス

科目名	基礎看護援助論Ⅴ (診療の補助技術Ⅱ)	単 位	1	時 間 数	15	開 講 時 期	2年次前期	担 当 者	教員 ※実務経験のある教員
学習のねらい	健康障害のある対象が安心して安全・安楽に診療が受けられるように、また、治療効果が上がるように援助することは看護師の大切な役割である。したがって、診療と検査治療の目的を理解し、援助するための技術について学習することが本科目における大きな目的であり、具体的には吸入・吸引の技術、罨法、救急救命法における基礎的な知識、技術を習得し、診療の補助技術についての理解を深めることをねらいとする。								
目的・目標	目的；診療と検査治療の目的を理解し、援助するための技術について理解することができる。 目標；1. 吸入・吸引の種類、目的と方法について理解することができる。 2. 罨法の種類、目的と方法について理解することができる。 3. 救急救命法の種類、目的と方法について理解することができる。								
授業計画	吸入・吸引技術 (3回；45分×6)		罨法 (2回；45分×4)			救急救命法 (2回；45分×4)			
	1)-2) 吸引の目的と種類・原理と方法(一時吸引、胸腔ドレナージ、咳嗽介助、体位ドレナージ) 吸入の目的と種類・原理と方法(定量噴霧式吸入器、ネブライザー吸入) 3) 【校内実習】モデル人形を用いた吸引の実際		4) 部分浴・罨法・マッサージの目的・適応と種類 5) 【校内実習】部分浴・罨法・マッサージの実際			6) 一次救命処置(BLS)、AEDの取り扱い、バックバルブマスクの取り扱い、窒息への対応、回復体位 7) 【校内実習】BLS			
	筆記試験(45分)								
評価方法	課題レポート(5%)、筆記試験(100%)で評価する。 吸入・吸引；40%、罨法；30%、救命法；30%の配点とする。								
教科書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院								
参考文献	写真でわかる基礎看護技術 ① ② インターメディカ 基礎看護学 ナーシンググラフィカ⑱ 基礎看護技術 メディカ出版								
履修要件									

## シラバス

科目名	基礎看護援助論VI (安全を守る技術)	単位	1	時間数	15	開講時期	1年次 前期	担当者	医療安全担当看護師 感染管理認定看護師 ※実務経験のある教員				
学習のねらい	医療事故を防止することは、安全確保のためであるとともに看護の質を保証して向上させることでもあり、看護師にはそれに向けて努力することが求められる。感染予防も看護師等医療従事者による実績の積み重ねがなければ達成できない。そこで、本科目では医療・看護において安全を守るために必要な知識・技術・態度を習得し、正しい知識をもって実践できる力を養う。												
目的・目標	<p>目的；対象および医療者の安全を守るために必要な知識・技術・態度を習得する。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事故やインシデント発生のメカニズムや現状を知り、安全を守ることの重要性を理解できる。</li> <li>2. 業務の中で危険度の高い医療事故に対する予防策を理解することができる。</li> <li>3. 成立の条件および感染防止の基本を理解できる。</li> <li>4. 師が感染防止のための実践を行うことの重要性を理解できる。</li> <li>5. 予防策や無菌操作を学び、正しく実践できる。</li> </ol>												
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全（3回） （3回；45分×6）</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 感染管理（4回） （4回；45分×8）</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療安全とは 医療事故と医療過誤 医療事故・ヒヤリハット事例の現状</li> <li>2) ヒューマンエラーのメカニズム 看護師の法的責任 看護学生の法的責任</li> <li>3) 医療事故を防止するための対策（誤薬、患者誤認、転倒・転落防止等）</li> </ol>					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) スタンダードプリコーションと感染経路別予防策 医療廃棄物の取扱い</li> <li>2) 洗浄・消毒・滅菌 血管内留置カテーテル関連感染</li> <li>3) 職業感染防止 アウトブレイクへの対応 サーベイランス</li> <li>4) 【校内実習】手指衛生、個人防護具の着脱、滅菌物の取扱い</li> </ol>			
	筆記試験（45分）												
評価方法	課題レポート（10%）、筆記試験（90%）により評価する。 医療安全40%、感染管理60%の配点とする。												
教科書	系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院												
参考文献													
履修要件													

## シラバス

科目名	基礎看護援助論Ⅶ (学習支援技術)	単位	1	時間数	15	開講時期	1年次 後期	担当者	教員
学習のねらい	看護の機能のひとつである学習支援活動について学習する。対象が健康の回復や健康維持・増進のために行動を変容していけるように援助するための指導技術を、基礎理論から学習する。本科目で対象とその家族への指導技術を習得し、各領域での対象の指導に応用できる力を養ってほしい。								
目的・目標	<p>目的；対象が健康回復や健康保持・増進のための行動がとれるよう、対象の行動変容・行動強化に関する理論および支援方法を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護に必要な学習支援の目的・意義を理解することができる。</li> <li>2. 学習や行動変容に関する理論の概要を理解することができる。</li> <li>3. 健康回復・保持増進のために効果的な学習支援の方法を理解し、学習支援技術を身につける。</li> </ol>								
授業計画	<p>1回 (45分×2) 看護活動における学習支援の目的 学習支援のための理論の理解 (大理論・中範囲理論・実践理論)</p> <p>2回 (45分×2) 行動変容、行動強化に関する理論の理解①</p> <p>3回 (45分×2) 行動変容・行動強化に関する理論の理解②</p> <p>4回 (45分×2) 学習支援のための計画立案</p> <p>5回 (45分×2) 学習支援計画のプレゼンテーション</p> <p>6回 (45分×2) 学習支援の実施 教材作成</p> <p>7回 (45分×2) 学習支援の評価 ロールプレイ</p> <p>8回 (45分) 筆記試験</p>								
評価方法	課題レポート (5%)、筆記試験 (95%) で評価する。								
教科書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院								
参考文献									
履修要件									

## シラバス

科目名	基礎看護援助論Ⅷ (問題解決技術)	単 位	1	時 間 数	30	開 講 時 期	1 年次後期	担 当 者	教員
学 習 の ね ら い	<p>アメリカ看護師協会(ANA)によると、「看護とは実在または潜在する健康問題に対する人間の反応を診断し治療することである」と定義されている。この看護を具体的に実践するための方法論が「看護過程」である。基礎看護援助論Ⅷでは看護過程展開の基盤となる考え方や看護過程の概要(アセスメント・看護診断・計画・実施・評価)を学ぶ。また看護は健康問題に対する人間の反応を対象とするため、系統のかつ包括的に対象を理解する必要がある。本校では、NANDA-I の看護診断分類法Ⅱに基づく 13 領域の枠組みを使用し対象を理解し、コミュニケーション能力・フィジカルアセスメント能力を用いながら看護診断を決定する。</p> <p>この学習をとおして実際の看護を想像し、看護とは何かということに関心をもってもらい、看護実践の基本となる考え方を身につけ、今後学習する看護に応用していく能力を養うことをねらいとする。</p>								
目 的 ・ 目 標	<p>目的；看護過程について学習を進める中で、実際の看護を想像し、看護に対する理解・関心を高める。</p> <p>目標；1. 看護過程の基盤となる考え方(問題解決過程・クリティカルシンキング)について理解できる。 2. 看護過程の概要(アセスメント・看護診断・計画・実施・評価)について理解できる。 3. 看護過程の概要と実際について理解できる。</p>								
授 業 計 画	<p>1. 2 回 (45 分×4) 看護過程の基盤となる考え方 問題解決過程・クリティカルシンキング 3 回 (45 分×2) 看護過程の概要 (看護診断の歴史、概要) 4 回 (45 分×2) 事例展開①看護に必要な情報 5 回 (45 分×2) 事例展開②アセスメント：情報の整理と分析、フォーカスアセスメント 6 回 (45 分×2) 事例展開③情報収集の実際 インタビューの実際 7 回 (45 分×2) 事例展開④アセスメント：推論 8 回 (45 分×2) 事例展開⑤全体像の把握：関連図 9. 10 回 (45 分×4) 事例展開⑥看護診断の決定 発表、グループ 間討議 11 回 (45 分×2) 事例展開⑦看護目標、看護計画の作成 12. 13 回 (45 分×4) 事例展開⑧実施 発表 14 回 (45 分×2) 事例展開⑨評価 15 回 (45 分×2) まとめ 思考の整理 看護過程の振り返りから看護とは何かを考える</p>								
評 価 方 法	<p>提出課題 (100%) で評価する</p>								
教 科 書	<p>系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p>								
参 考 文 献	<p>NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院 黒田裕子 しっかり身につく看護過程 照林社 江本愛子 (監訳) 看護成果分類 (NOC) 医学書院 中木高夫・黒田裕子 (訳) 看護介入分類 (NIC)</p>								
履 修 要 件									

## シラバス

科目名	基礎看護援助論Ⅸ (ケース・スタディ)	単 位	1	時 間 数	30	開 講 時 期	3年次前期	担 当 者	教員
学習のねらい	<p>看護は、実践の科学であると言われている。看護の実践活動は、多くの要因が絡み、起こっている現象である。したがって、それらの要因の関係性の中で行われる看護は、複雑な様相を呈している。そのため実践を細かく捉えていくことは困難である。しかし、科学的にその現象を捉えていかなければ、看護は捉えどころのないものとなってしまう、発展はなくなってしまう。</p> <p>看護実践を、丁寧に観察し、何が起きているのか、或いは起きている原因は何か、今後どのようなことが起こり得るのかという結果予測をすることで、実践を構造化していく。このようなプロセスが、研究そのものであり、研究によって看護が創造的、発展的に進化していくこととなる。</p> <p>ケース・スタディは、研究手法の中の事例研究の前段階のものである。3年次の実習の体験をまとめる(ケース・スタディ)ことを通して、自分の看護を発見していく手掛かりとする。</p>								
目的・目標	<p>目的；実習で体験した自身の看護をケース・スタディを通して振り返り、学びを他者と共有できる。</p> <p>目標；1. ケース・スタディ意義・プロセスについて理解することができる</p> <p style="padding-left: 2em;">2. 教員の指導の下で、計画書、原著論文、抄録、発表原稿の作成を行うことができる</p> <p style="padding-left: 2em;">3. 各自の役割を果たすことで発表会の運営が行える</p>								
授業計画	<p>1回 (45分×2) ケース・スタディの意義・プロセス (事例における目的・患者紹介・看護の実際・考察・結論 の内容検討)</p> <p>2. 3回 (45分×4) ケースの選定とテーマの絞り込み</p> <p>4. 5回 (45分×4) 文献検索の意義および実際</p> <p>6. 7回 (45分×4) 草案作成 (目的・患者紹介・看護の実際)</p> <p>8. 9回 (45分×4) ケース・スタディの計画書作成</p> <p>10回 (45分×2) 原著論文・抄録のまとめ方と書き方</p> <p>11回 (45分×2) 発表の仕方(内容・構成・方法)と発表原稿の書き方</p> <p>12回 (45分×2) 発表会の運営</p> <p>13. 14. 15回 (45分×6) 発表会</p>								
評価方法	<p>ケース・スタディの内容；原著論文およびパワーポイント (20%)</p> <p>発表時の内容と方法、発表態度 (30%)</p> <p>個人ワークの提出と内容 (50%)</p>								
教科書									
参考文献	<p>高橋百合子 看護学生のためのケース・スタディ メヂカルフレンド社</p> <p>松本孚・森田夏美 わかりやすいケース・スタディの進め方 照林社</p> <p>國澤尚子 初めて学ぶケーススタディ 総合医学社</p>								
履修要件									

## シラバス

科目名	基礎看護援助論 X (看護研究)	単 位	1	時 間 数	1 5	開 講 時 期	3 年次前期	担 当 者	教員
学 習 の ね ら い	<p>これから看護師として働くうえで必要な力の中に、「事象を科学的にとらえることができる力」がある。看護職＝専門職者として考えると、本科目である看護研究は責務となってくる。</p> <p>研究があるからこそ、看護は進歩していく。研究の醍醐味は、研究結果を看護に役立ててより良いケアを実践していこうとすることにある。EBN(Evidence-Based Nursing)が求められる今、看護研究の重要性はますます高まっている。</p> <p>短い学習時間の中でも看護研究の概要を知ることで、看護研究への興味、関心を高めることをねらいとする。</p>								
目 的 ・ 目 標	<p>目的；看護研究の意義と方法を理解し、将来にわたって自己研鑽を積み重ねていく素地を養う。</p> <p>目標；1. 看護研究の概要について述べるができる。</p> <p>2. 看護研究の種類・方法について大まかに理解することができる。</p> <p>3. 看護研究を進めるうえでの文献検索やデータ収集・分析方法について理解することができる。</p> <p>4. 自身の「研究力」の芽を大切に育むことができる。</p>								
授 業 計 画	<p>1 回 (45 分×2)．看護研究の概要</p> <p>2 回 (45 分×2)．質的研究と量的研究</p> <p>3 回 (45 分×2)．既存の看護研究論文のクリティーク</p> <p>4 回 (45 分×2)．研究計画書・データの収集と分析</p> <p>5 回 (45 分×2)．倫理的配慮</p> <p>6 回 (45 分×2)．文献検討(検索)</p> <p>7 回 (45 分×2)．研究計画書作成</p> <p>8 回 (45 分×1)．研究成果の公表・プレゼンテーション</p>								
評 価 方 法	<p>課題レポートで評価 (100%)</p>								
教 科 書	<p>必要な資料はその都度配布する予定です。</p>								
参 考 文 献	<p>井上幸子編 看護学体系 看護における研究 日本看護協会出版会</p> <p>数間恵子他 看護研究のすすめ方よみ方つかい方 日本看護協会出版会</p> <p>黒田裕子 黒田裕子の看護研究 医学書院</p> <p>上野栄一 看護研究 医学書院</p>								
履 修 要 件									

## シラバス

科目名	臨地看護学演習 I	単 位	1	時 間 数	30	時 期	1 年次後期	担 当 者	全教員
学 習 の ね ら い	<p>看護基礎教育は、机上の知識、学内でのモデル人形や疑似患者への看護技術を踏まえ、臨地実習での実際の患者への看護を通じて初めて統合される。そのために、学内の学習と臨地実習での学習をどのように統合させていくかを学ぶ必要がある。本科目では各臨地実習で特に学んで欲しいこと、また、学生が臨地実習で戸惑いやすい場面を取り上げ、その時の学習方法や問題解決の方法を理解していく。講義では、紙上事例を使って実習使って実習での学習方法をイメージしていく。想定する臨地実習の場面に対してよりリアリティーを感じられるように、視聴覚教材やロールプレイなどを用い、その後グループワークによる意見交換を行っていく。</p> <p>臨地実習では、学生が意識的にその看護実践が行われている場面を洞察できるか、また、意図的に患者に看護をしていたかどうかによって、学習の成果に大きな差が出ると考える。実習前後に受講する本科目を通じて既習の学習をどのように統合し、臨地実習で学んでいくのかを理解する。</p>								
目 的 ・ 目 標	<p>目的；学内での学習と臨地実習での学習をどのように統合させていくのかを学ぶ。また実習で学習する内容や方法を学ぶと共に、学習姿勢を整えることを学ぶ。</p> <p>目標；1. 基礎看護学実習 I の目標を達成するためのアプローチや考え方について理解できる。 2. 基礎看護学実習 I での学びを他者に伝え、共有化することができる。 3. 今後の自己の学習課題を見出すことができる。</p>								
授 業 計 画	<p>1. 2 回 (45 分×4) 基礎看護学実習 I での学習内容と方法を理解する</p> <p>3 回 (45 分×2) A 実習での学習内容と方法を理解する</p> <p>4 回 (45 分×2) B 実習での学習内容と方法を理解する</p> <p>5. 6 回 (45 分×4) A 実習での学び方を理解する A 実習の事前学習</p> <p>7. 8. 9 回 (45 分×6) 実習場면을想定したシミュレーションを通して患者の全体像を把握する</p> <p>10 回 (45 分×2) 対象の全体像をクリティークする</p> <p>11 回 (45 分×2) 学生カンファレンスの運営について</p> <p>12 回 (45 分×2) 実習中に起こりそうな場面への対応について考える</p> <p>13 回 (45 分×2) A 実習での学びを共有する</p> <p>14 回 (45 分×2) B 実習の事前準備を整える 受け持ち患者の情報収集への準備学習</p> <p>15 回 (45 分×2) B 実習での学びを共有する 今後の学習課題を明らかにする</p>								
評 価 方 法	出席状況 (5%)、課題レポート提出状況及び内容 (90%)、グループワーク (5%) の参加度を総合して評価する。								
教 科 書	実習要項								
参 考 文 献	必要資料はその都度提示する。								
履 修 要 件									

## シラバス

科目	臨地看護学演習Ⅱ	単位	1	時間数	30	時期	2年次 前期	担当		教員	
学習のねらい	<p>臨地実習では、学生が意識的にその看護実践が行われている場面を洞察できるか、また、意図的に患者に看護をしていたかどうかによって、学習の成果に大きな差が生じる。基礎看護学実習Ⅱ・Ⅲ前後に受講する本科目を通じて、臨地実習への準備や実習中の学習方法、問題解決の方法を身につける。</p>										
目的・目標	<p>目的；実習前は基礎看護学実習ⅡおよびⅢに向けて準備を整え、実習後は学びを共有し整理する。                      目標；1. 既習の学習を統合しどのように臨地実習で学んでいくかを理解することができる。                      2. 基礎看護学実習ⅡおよびⅢに向けて万全な準備を整えることができる。                      3. 実習終了後に学びを共有し、自己の学習課題を明確にすることができる。</p>										
授業計画	<p>1回（45分×2）基礎看護学実習Ⅱの学習内容の理解；紙上事例への看護援助を考える①（情報収集～アセスメント）                      2回（45分×2）紙上事例への看護援助を考える②（援助計画立案）                      3回（45分×2）紙上事例への看護援助を考える③（援助の実施、評価）                      4回（45分×2）学生カンファレンスの運営の方法；学生が起こしやすいインシデントを分析し対策を考える                      5回（45分×2）臨地実習で学生が遭遇しやすい場面での対応を考える（ロールプレイ） 実習前の最終確認を行う                      6回（45分×2）基礎看護学実習Ⅱでの学びを共有して今後の課題を見つける                      7回（45分×2）基礎看護学実習Ⅲの学習内容の理解；紙上事例の看護過程の展開①（情報収集～アセスメント）                      8回（45分×2）紙上事例の看護過程の展開②（関連図作成～看護診断抽出）                      9回（45分×2）紙上事例の看護過程の展開③（看護計画立案）                      10回（45分×2）看護技術を実践し、SOAP記録を記載する                      11回（45分×2）紙上事例の看護過程の展開④（実施・結果、評価）                      12回（45分×2）カンファレンスの準備・運営（中間カンファレンス、最終カンファレンス）先輩からのオリエンテーション（病棟の特徴）                      13回（45分×2）実習中の学生の行動を考える                      14回（45分×2）実習前の最終確認を行う                      15回（45分×2）基礎看護学実習Ⅲでの学びを共有して今後の課題を見つける</p>										
評価方法	<p>授業中の課題の提出状況および内容（100%）で評価する。</p>										
教科書	<p>実習要項、その他必要なテキストや資料はその都度提示・配布する。</p>										
参考文献											
履修要件											